

日本小児科学会小児医療委員会主催

小児在宅医療実技講習会報告

開催日時：2022年6月26日（日）9：00～16：00

開催場所：佐賀大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター（佐賀県佐賀市鍋島5-1-1）

参加費：6,000円（テキスト，昼食代込み）

参加者数：47名（申込49名，欠席2名）

主催：公益社団法人日本小児科学会

後援：佐賀市，佐賀県，佐賀県小児科医会，佐賀県医師会，佐賀小児科地方会，
佐賀大学医学部小児科，日本小児在宅医療支援研究会

概要：日本小児科学会が毎年実施している小児在宅医療の基礎知識と基本技術の習得を目的とした主に医師向けの講習会を今回は佐賀県で開催した。講義に加え，人工呼吸器，酸素などの体験学習，実習人形を用いた気管切開カニューレ交換と胃ろうボタン交換，ポジショニング・気道確保や小児の採血・血管確保などの実技体験を行った。

プログラム内容：

1. ブリーフィング：小野直子（佐賀大学小児科）
2. 開会の挨拶：藤枝幹也（日本小児科学会小児医療委員会担当理事）
3. 講義1「医療的ケア児の栄養・胃ろう管理」：山内 健（佐賀県医療センター好生館小児外科）
4. 実習1「在宅人工呼吸器」，「在宅酸素」
実習2「気管切開カニューレ交換」，「胃ろうボタン交換」
5. 講義2「佐賀県の小児在宅医療の現状と展望」：小野直子（佐賀大学小児科）
6. 講義3 ランチョンセミナー「小児の鎮静・鎮痛」：
三浦大介（佐賀県医療センター好生館麻酔科）
7. 講義4 医療的ケア児を診る（1）「筋緊張のマネジメント」：
石井清久（佐賀整肢学園こども発達医療センター小児科）
8. 実習3「排痰補助装置・パーカッション」
実習4「ポジショニング・気道確保」，「小児の採血・血管確保」
9. 講義5 医療的ケア児を診る（2）「てんかん発作の対応」：田島大輔（唐津赤十字病院小児科）
10. 講義6 医療的ケア児を診る（3）「緊急時のアセスメントとその対応」：
前田寿幸（佐賀県医療センター好生館小児科）
11. 修了証の授与：松尾宗明（日本小児科学会小児医療委員会担当理事/佐賀大学小児科）
12. 閉会の挨拶：松尾宗明（日本小児科学会小児医療委員会担当理事/佐賀大学小児科）

参加者：佐賀県34名，群馬県1名，東京都2名，愛知県1名，兵庫県1名，岐阜県1名，大阪府1名，愛媛県1名，福岡県4名，沖縄県1名

内訳：日本小児科学会会員19名，非会員28名

医師（小児科）19名，医師（小児科以外）3名，看護師25名

スタッフ内訳：

講師6名：佐賀大学1名，佐賀県医療センター好生館3名，唐津赤十字病院1名，佐賀整肢学園こども発達医療センター1名。

チューター8名：佐賀大学4名，佐賀県医療センター好生館1名，唐津赤十字病院1名，嬉野医療センター1名，重症児デイサービスイーはとーぶ1名。

スタッフ10名：佐賀大学10名（うち，佐賀大学医学部医学科8名）

日本小児科学会小児医療委員会4名：担当理事2名，委員1名，アドバイザー1名

アンケート結果：受講生のうち45名から回答があり，アンケート結果からは好評であったことがうかがえた。在宅

呼吸器の実践的なモニター設定や、採血における重症心身障害児用の工夫、アドバンス・ケア・プランニングについてなども学びたいとの声もあがった。実際に小児在宅で関わっている他職種のグループワークなどの提案もあった。

まとめ：コロナ禍もある程度落ち着き、実地での実技講習会開催となった。当初の予定より受講者数をやや拡大して行った。佐賀県内の医療関係者が多かったが、遠方からの受講者も参加し、本実技講習会が各地域の小児在宅医療推進に役立ったと考えた。また、新たな実技の取り組みなど、今後の実技講習会のあり方を考える上でも有用であった。